



シリーズ「元気が一番！」

続・衝 撃！！ 読書と学力の関係

校長 笠井 猛雄

12月の全校朝会で子どもたちに次のように問いかけました。

読書をする、学校の成績は上がるでしょうか？



行谷小学校では、2学期から、読書に力を入れています。始業前と金曜日の昼休みに、新たに「読書タイム」を設定し、読書活動を推進してきました。

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた、「読む力」と「集中力」を鍛えるための全校体制の取組です。

登校したら進んで読書に取り組む子が増えてきました。

金曜日は読書デーということで、朝と昼に全校で読書をしています。

授業の課題が早く終わった時や昼休みに本を読んでいる子もいます。

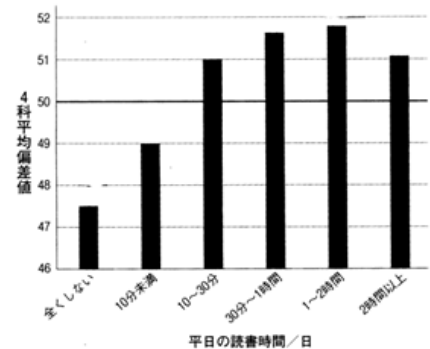
川島隆太氏は言います。

読書習慣のない小中学生の多くは、家庭での学習や睡眠時間にかかわらず、試験の成績が平均点以下になっています。毎日1～2時間も勉強をして、ちゃんと睡眠をとっているにもかかわらず平均点以下の成績しかとれません。それは脳の発達と関係があります。

※川島隆太監修 松崎泰、榑浩平著

「最新脳科学でついに出了結論『本の読み方』で学力は決まる」
(青春出版2018)「はじめに」より

読書時間と成績の関係



「読書習慣がないと、成績が平均点以下…!!」

「学校だより7号」で紹介した「スマホと学力の関係」と同様、衝撃的な結果です。

右上のグラフをみると、平日の読書時間が長くなるほど成績が高いことが分かります。

平日の読書時間が10分未満だと平均点（偏差値50）以下です。

ただし、2時間以上読書をする子の成績は落ち込んでいます。

これは、長時間の読書によって、勉強や睡眠の時間を削ってしまうことが間接的に成績低下につながっているようです。

さて、子どもたちには、読書の効用について「新潟日報」の投書記事から紹介しました。

読書をする、集中力が身に付きます。頭の回転がよくなり、勉強ができるようになります。読書をして集中力を身に付けるとスポーツも得意になります。(小学生)

普段生活している世界と本の世界は全く違います。読書をしているときだけは、別人になれます。いろいろな漢字や言葉を知ることができます。(中学生)

※新潟日報「窓」(2018.11.26付)から要約

学校では、どの学年も毎日最低10分～30分の読書時間を確保しています。

15分でも集中して読書をする、元気が湧いてきます。

目標は毎日30分以上、できれば1時間以上の読書を子どもたちに勧めています。

学校でも家庭でも進んで読書に親しみ、「読む力」はもちろん「集中力」を身に付け、一人一人が元気一杯活躍できることを願っています。

2学期のご支援とご協力ありがとうございました。何かと忙しい年末年始ですが、事故のない安全で有意義な冬休みになることを願っています。よいお年をお迎えください。